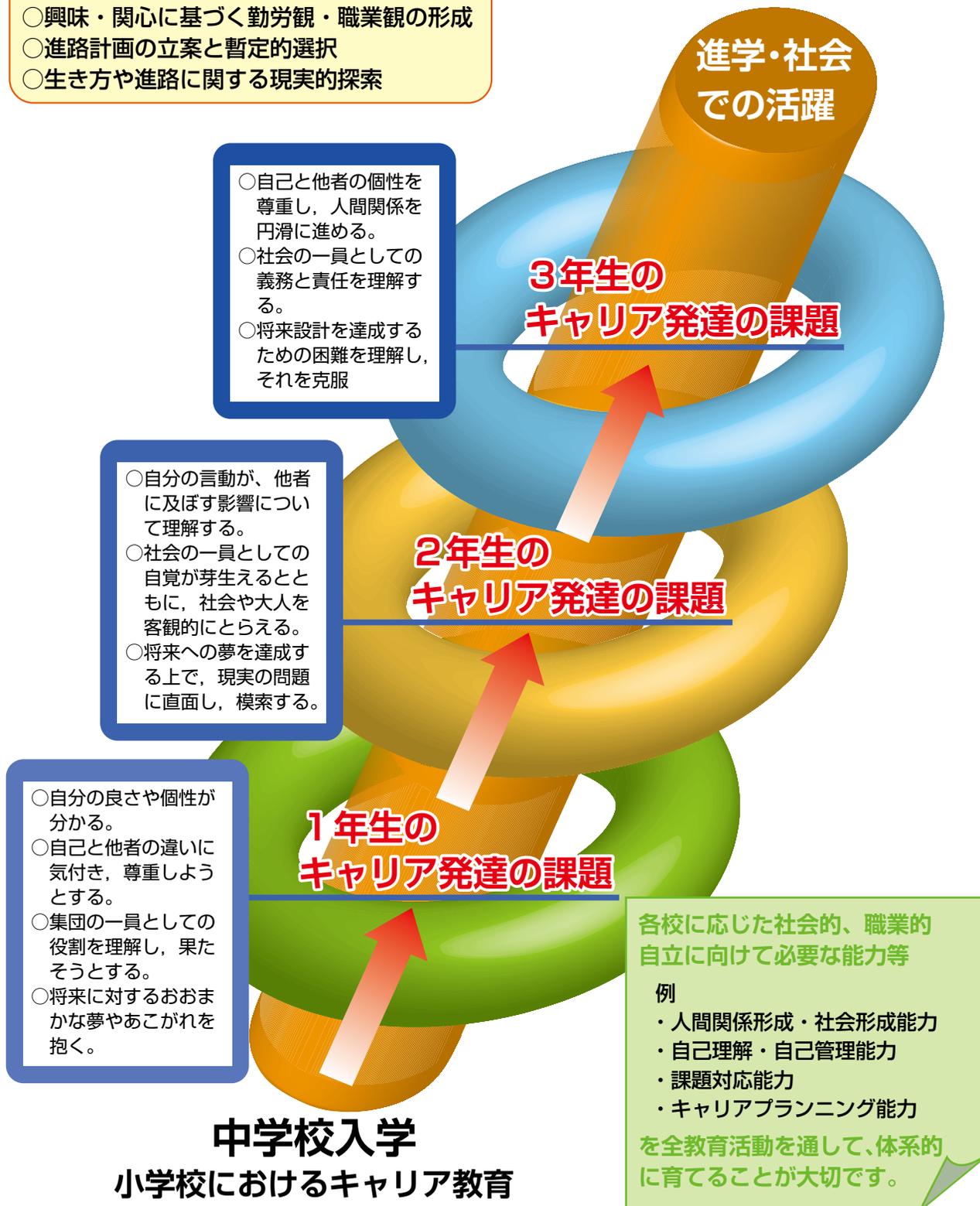


第2節 各学年におけるキャリア発達課題

中学校におけるキャリア教育の目標

- 肯定的自己理解と自己有用感の獲得
- 興味・関心に基づく勤労観・職業観の形成
- 進路計画の立案と暫定的選択
- 生き方や進路に関する現実的探索



1 第1学年の発達課題と取組の基本的な考え方

第1学年の生徒は、新しく始まる中学校生活へ大きな期待を抱きながら入学してくる。初めての教科担任制による授業、部活動、定期考査など小学校とは大きく違う学校生活が始まる。そこで、ガイダンスの機能を十分に働かせながら、「中1ギャップ」などの問題を解決し、小学校から中学校への円滑な適応を図っていくことが求められる。また、学校行事や生徒会活動など集団の中で役割を担って活動する場面が多くなり、人間関係が拡大する時期でもある。他者とのかかわりの中で自己をよく理解し、他者の個性を尊重し、より良い人間関係を築いていこうとする能力や態度を育てていくことが重要である。さらに、職業調べや職場訪問などの活動を通して、社会の様々な職業についての視野を広げ、将来に対する夢やあこがれを抱いて、その実現に向けて努力する態度を育てていくことも大切である。

(1)自分の良さや個性が分かるために

・中学校生活のガイダンスや諸検査、学級活動などを通し、中学校生活に適応できる環境や自分自身の良さを知る機会をつくる。

【実践例】 ○自分を知ろう ○適性と進路

(2)自己と他者の違いに気づき、尊重しようとするために

・各教科などでの学習を中心として、自分の考えを適切に伝えることのできる能力を身に付けるとともに、相手の考えを受け止める態度を養う。

【実践例】 ○中学校生活の目標を立てよう ○調べたことを発表しよう

(3)集団の一員としての役割を理解し、果たそうとするために

・学級や委員会、生徒会等の諸活動を通し、自主性を高める。

【実践例】 ○学級の組織をつくろう ○体育祭を盛り上げよう

(4)将来に対する大まかな夢やあこがれを抱くために

・職業調べや職場訪問などの活動を通し、将来の生き方に興味をもたせる。

【実践例】 ○将来の夢を語ろう ○職業を知ろう

【実践例】《特別活動・学級活動》

題材名 自分を知ろう

ねらい

- 自分の良さや個性についての理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力を育てる。
- 自分の良さを伸ばしたり、課題を見つけて積極的に解決しようとしたりする態度を育成する。

本実践とキャリア教育

- 人にはそれぞれちがった良さや個性がある。将来を考える上で自分のことをよく知り、理解を深めることはとても大切なことである。特に、自分の良さを知り、それを伸ばし生かしていくことは、より良い生き方につながる。また、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことは、より良い人間関係をつくっていくためにとても重要なことである。

全体構想

<特別活動・学級活動>
・働く人々（職業調べ）

<道徳>
・個性や立場の尊重

○人と個性
・職業によって適性があることを知る。

○自分を知る
・自他の良さや個性について認め合う。

<日常生活の評価>
・係や委員、当番の活動
・生活ノートの記録

<行事や部活動の評価>

《本時のねらい》

- 互いの個性について話し合うことにより、自分の良さや個性に気付き自己理解を深め、多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動する。
- 自分の良さをさらに伸ばしたり、課題を見つけて積極的に解決しようとしたりする。

《展 開》

過 程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導 入	1 自己分析表に基づいて考えた自分の特色について発表する。	○自分について知るためには、様々な角度から見ていくことが必要であることに気付かせる。
展 開	2 友達同士でお互いの良い面を見つけて、互いに伝え合う。	○友達同士でペアを組ませて、互いに認め合うことができるように配慮する。 ◎自分の良さや個性について、「自分が知らない面」「他者が知らない面」があることに気付かせる。
	3 自分の良さや個性についてもう一度分析し、まとめる。	○友達の感想を、自分を見つめ直すために生かすよう助言する。 ◎互いの個性について話し合う中で、自分の良さや個性に気付かせるとともに、多様な個性を理解し互いに認め合うことの大切さを知らせる。
	4 自己分析をもとに、今後の自分の努力目標を作成し発表する。	○互いの発表を賞賛・激励し合う中で、今後の活動への意欲をもたせる。 ◎今後の努力目標を作成する中で、自分の良さをさらに伸ばしたり、課題を見つけて積極的に解決しようとしたりする意欲や態度を育てる。
ま と め	5 本時の学習を振り返り、自己評価を行う。	☆自分の良さや個性に気付き、自他の個性を認めて自分の良さを伸ばしたり、課題を見つけて積極的に解決しようとしたりすることができる。 ◎将来、進路選択をしていく上でも、自分をよく知る努力をすることが大切であることを理解させる。

●実践のポイント●

○自己分析をていねいにさせましょう

自己分析表等により、性格・行動、学習、特技など多面的に自分自身を振り返らせましょう。その際、自分の良さや個性は成長とともに変化してきたこと、今後も心身の成長や様々な体験を通して変わっていくことなどに気付かせましょう。

○話し合いの場面を設定して、互いの良い面を認め合える雰囲気をつくりましょう

相互に意見交換する場を設定して、多様な個性を理解し、互いにその良さを積極的に認め合えるような集団の雰囲気をつくっていきましょう。

2 第2学年の発達課題と取組の基本的な考え方

第2学年の生徒は、学校生活にも慣れ、新入生を迎え、中学生活にやりがいを感じ、中堅学年として充実した生活を送ることのできる学年である。そこで、中堅学年としての学校生活における立場や役割を自覚させ、新たな希望や抱負をもって、有意義な学校生活を送るようにすることが大切である。そのためには、自分の特性や能力を生かしながら、充実した学校生活を自分でデザインし、何事にも意欲的に取り組もうという心構えをもたせるとともに、職場体験活動等に参加する機会をとらえて、社会と自分とのつながりについても考えさせる必要がある。

(1)自分の言動が、他者に及ぼす影響について理解するために

・様々な人とかわりながら、より良い生活や学習、進路、生き方などを目指すことの大切さを理解する。

[実践例]○ 充実した生き方を探る ○ 行事を盛り上げる

(2)社会の一員としての自覚が芽生えるとともに、社会や大人を客観的にとらえるために

・職場体験やボランティア活動等を通し、勤労の意義や働く人々の思いを理解する。

[実践例]○ 働く人々に学ぼう ○ ボランティア活動をしよう

(3)将来の夢を達成する上での現実の問題に直面し、模索するために

・キャリアカウンセリングなどを通し、自分の適性を知り、諸活動に生かしていく。

[実践例]○ 社会の一員として生きる ○ 自分の適性、自分の進路

【実践例】《特別活動・学級活動》

題材名 充実した生き方を探る

ねらい

- 様々な立場の人の話をよく聞き、働くことの意義や大切さを理解する。
- 職場体験や講話、パネルディスカッションなど、様々な機会を通して「充実した生き方」について考え、前向きに自己の生き方を見つめようとしている。

本実践とキャリア教育

- 「充実した生き方」という共通テーマのもとで、職場体験や講話会を行い、それぞれの活動を通して、自分の中でどんな生き方が大事なのかを考えさせていきたい。
- 自分の考えをより深めるために、きちんと仮説を立て、様々な活動を通して課題を追究する方法をとった。仕事を通して社会の中で果たす役割に気づき、自分の人生を充実させるには何が必要か、特性や適性を知りながら考える過程は、キャリア教育と深くかかわるものである。

全体構想

第1時～6時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職場体験学習の計画を立てよう ・体験先を探し、依頼状を作成する。 ・質問内容や当日の活動計画を立てる。 	[関連] <道徳> ・1-(5) 充実した生き方 ・4-(5) 勤労の尊さと意義の理解 <特別活動・学校行事> ・勤労生産、奉仕的行事 <特別活動・学級活動> ・生き方を考えよう
第7時～22時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職場体験を語ろう ・職場体験学習を行う。 ・職場の方にお礼状を出す。 ・記録集をまとめる。 	
第23時～28時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私の考える「充実した生き方」とは ・活動を通して学んだことを発表する。 ・自分の人生設計図を描く。 ・職場の方にお礼状を出す。 ・記録集をまとめる。 	

《本時のねらい》

- 「充実した生き方」についてのパネルディスカッションでほかの生徒の意見を聞くことによって、様々な生き方に気付くとともに、自分自身の考えの変化を自覚する。

《展開》(25/28時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 これまでの学習を振り返る。 2 開会の言葉(生徒司会)	○今までの学習や活動の様子を写真で振り返り、意見交換が進みやすい雰囲気を作る。 ○本時の課題に対し、参加する意欲をもたせる。
展開	3 パネルディスカッション ・パネリストによる討議及びフロアの生徒を交えた質問・意見交換 私の考える「充実した生き方」とは (1)どんな仮説を立てましたか。 (2)体験を通して得たことは何ですか。 (3)あなたは「充実した生き方」についてどう考えていますか。 (4)充実した生き方をするために、どんな人でありたいですか。 4 カード記入・感想発表	○パネリストの価値観の違いに注目させる。 ○テーマごとに質問や意見交換を区切ったり、アンケート結果などを提示したりして、意見を出しやすい環境をつくる。 ◎意見交換を通して、積極的にコミュニケーションをとることができる。 ◎充実した生き方について、自分の言葉で表現することができる。 ◎自分の課題を理解し、生活を改善しようとする。 ☆友達の考えを知り、充実した生き方の多様性に気付き、自分自身の考えの変化を自覚できる。
まとめ	5 記入したカードを交換する。 6 閉会の言葉(生徒司会)	◎意見の多様さに気付き、自分の見方や考え方を広げる。

●実践のポイント●

○地域の教育力を生かしましょう

この実践例は、職場体験をもとにしたパネルディスカッションです。様々な仕事があると同時に生き方も様々です。自分の身近な地域で仕事に励むすてきな人たちとの出会いが自らの学びを支えてくれたことを再認識させ、事前の調査、あいさつ、依頼、そして事後のお礼の意義と必要性について理解を深めさせましょう。

○ポートフォリオで学習の成果を保存しましょう

職場体験や取材、意見交換など様々な活動の積み重ねで、生徒の考えは変容していきます。一人一人の1年間における学習の歩みや考えの変化をまとめ、保存、記録しておくことが、自己理解や今後の学習につながります。

3 第3学年の発達課題と取組の基本的な考え方

第3学年の生徒は、義務教育の最終学年であると同時に、自らの将来について深く考える学年である。自己の将来設計に基づく具体的な進路選択の時期を迎え、高等学校入学者選抜を始めとする具体的な進路選択に直面し、意志決定を迫られる。このように人生における重大な選択の時を迎えることになるため、生徒によっては時に精神的な余裕がもてなくなる場合がある。

そこで、最上級生であるという自覚のもと、希望と抱負をもって中学校生活の最終学年を送っていかうとする心構えと現実を見つめる決意をもち、自らの課題に積極的に取り組み、主体的に解決しようとする姿勢が大切になる。

(1)自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進めるために

・今までの諸活動で得たことを自らの学習や生活に生かそうとする。

[実践例]○ 実りある生活と学習 ○ 進路の選択に備えて

(2)社会の一員としての義務と責任を理解するために

・体験活動を通し、社会における様々な役割を理解するとともに、社会と自己のかかわりから自分の特徴に気付き、自分らしい生き方について考える。

[実践例]○ ボランティア活動に参加する ○ 社会の一員として生きる

(3)将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服する努力に向かうために

・様々な人からの意見などを参考に、自らの進路計画を立て、目標の実現に向かい努力を続けることの大切さが分かる。

[実践例]○ 充実した生き方について考える ○ 進路を考える

【実践例】《特別活動・学級活動》

主題名 仕事に生きる 4-(5)

資料名 たんぼぼ作業所 (出典「明日をひらく」東京書籍)

ねらい

○ 働くことの尊さや意義を理解するとともに、自らの人生をより良く生きようとする意欲を育てる。

本実践とキャリア教育

○ 人間は、生涯の中で約40年以上にわたって仕事に従事することになる。働くことでそこから収入を得て、生活することはもちろんであるが、自分の個性や能力を生かし社会に貢献する意義があるのも忘れてはならない。また、そのことは自らの人生をよりよく生きる「生きがい」ともかかわっている。この点で本主題は、望ましい職業観や勤労観をはぐくむキャリア教育のねらいと一致しており、資料を通して「働くことの意義」について考えを深めさせていきたい。

全体構想

事前指導	○ 若者の勤労に関する意識について考える ・ 職業についての意識調査を実施する。 ・ 新聞記事や世論調査にをもとに職業に関する自分の考えをまとめる。	〔関連〕 <道徳> ・ 1-(5) 充実した生き方 <特別活動・学級活動> ・ 進路を考える <特別活動・学校行事> ・ 勤労生産、奉仕的行事 <総合的な学習の時間> ・ 先輩に学ぶ <日常生活> ・ 当番活動など
本時の指導	○ たんぼぼ作業所 4-(5) ・ 「働くことの意義」について考える。	
事後指導	○ 将来の生き方について考える ・ 自分の体験や学級の意識調査をもとに考えをまとめる。 ・ 心のノートを活用する。	

《本時のねらい》

- 現実の厳しさに悩む主人公の心の動きや、仕事に対する考えの変化を通して、生きがいについて考える。
- 働くことの尊さと喜びを感じ取り、社会の一員としてよりよく生きようとする意欲を高める。

《展 開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 前時にまとめた、職業に関する自分の考えを発表する。	○新聞記事や若者の意識調査の結果を分かりやすく提示する。 ◎資料を通して、現代の若者意識を読み取る。
展開	2 資料「たんぼぼ作業所」を読み、主人公の仕事に対する考えの変化について話し合う。 (1)「ぼく」は修一君の世話をしながらなぜ悩んでいるだろう。 (2)「自分が何をやれば良いか少し分かりかけてきた」とあるが、どういことが分かりかけたのだろうか。	○資料への興味を引き出し、場面を把握しやすくするため、登場人物を絵で提示する。 ○実際に働く想像以上の困難があるということに気付かせる。 ○主人公が収入だけを目的としていたら悩んだりするか、想像してみるよう助言する。 ◎自分の能力などを生かして社会に貢献することに、働く喜びや充実感があることに気付く。
まとめ	3 働くために大切なことは何か話し合う。 ・働くときに自分が何を大切にしたいか考える。	◎働くときに、収入だけで満足感が得られるのか。何を大切にしたいのか、自分の言葉でまとめるように助言する。 ☆働くことの意義を理解し、現実の厳しさに負けず、充実した生き方を求める意欲をもつ。

●実践のポイント●

○統計資料から職業について考えましょう

内閣府が発行している「青少年白書」では、学校にも行かず、仕事も職業訓練もしないニートやフリーターの割合が依然として高い傾向にあり、社会的自立が困難な若者が多い現状が報告されています。また、このような調査結果は、よく新聞記事にも紹介されています。中学校3年生の段階では、こうした統計資料などに目を通し、数字から現代社会の問題点を読み取ることも意義深いことです。

○様々な体験活動の経験を生かした学習を工夫しましょう

職場体験やボランティア体験など今までの活動で多くの職業人と触れ合うほか、実際に働いてみて、仕事の大変さやつらさを感じた生徒も多いことでしょう。こうした経験を踏まえながら、資料の「たんぼぼ作業所」で主人公の心の動きを読み取ることで、生きがいについて考え、現実の厳しさを理解し、それを克服していく意欲をもたせていきましょう。